



発行所  
社団法人 国民文化研究会  
(九州←→東京←→全国)  
東京都渋谷区東1-13-1-402  
振替 00170-1-60507  
電話 03-5468-6230  
FAX 03-5468-1470

月刊「国民同胞」編集部  
毎月一回10日発行  
購読料 年間2000円

### 晴れて迎へる「昭和の日」！

「：昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」

山内 健生

平成の御代もすでに十九年、平成生れの若者がこの春、高校を巣立った。今年から昭和天皇御生誕日の「四月二十九日」を「昭和の日」の名のもとで迎へられることになった。

御代替り直後の昭和六十四年・平成元年の一月十三日から十七日にかけて、「四月二十九日」を「昭和記念日」として欲しいと願ひ、当時の小渕恵三官房長官や「皇位継承に伴う国民の祝日に関する法律改正に関する懇談会」委員の小林与三次読売新聞社長、安倍晋太郎自民党幹事長など十三名に、手書きの書簡を投函した。コピーよりも肉筆の方が悪筆であつても説得力があるのではないかなどと考へたことを思ひ出す。結局、「みどりの日」といふことになつた。

昭和天皇は昭和二十五年から始つ

た全国植樹祭（第一回は山梨県）に毎年ご臨席になり、そのご感想を「人々とあかえぞ松の苗うゑて緑の森になれといのりつ」（昭和三十六年、北海道）といふやうに多くの御製に「緑」「みどり」を詠み込んでをられることを知つて、「みどりの日」とは国土緑化に寄せられた昭和天皇の御心を偲ぶ日であると自らに言ひ聞かせた。農林水産省が、海外をも視野に入れた森林の保護・研究から、さらに科学・芸術・地域振興を対象にしたノーベル賞級の「みどり文化賞」を構想してゐるとの報道があつたことも、「みどりの日」でいいのかなと思つた理由だつた。この構想の話はどこへ行つてしまつたのか。

しかし、「みどりの日」の名称では、四月二十九日の意義を表してゐない

とする批判の声は各界で当初から燦々としてゐた。小田村寅二郎本会理事長は本紙平成元年二月号に「昭和天皇の御遺徳をお偲び申し上げる意がこめられる祝日名が望まれるのに、：：せめて『昭和の日』とでもすべきではなかつたのか」と記してをられた。そして、その後、年月の経過とともに「みどりの日」ではなく、やはり歴史的で具体性を伴つた呼称にしなければ「四月二十九日」の意味は伝はらないとの実感が識者の間に広がつて行つたのだつた。

昭和の日 四月二十九日

激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。

と明記した改正案が国会を通つたのは、運動発足から十二年後の平成十七年五月十三日のことだつた（五月二十日公布）。四月二十九日を「昭和の日」に！といふごく常識的な法律改正になぜ、かくも時間を要したのかここに至るまでの経緯は「昭和の日」推進国民ネットワーク編『昭和の日』実現への道（記録集）に詳しい。そこには運動が徐々に組織化され広範な国民運動へと展開して行つたことや、推進議員連盟の結成、根氣づくよく続けられた年ごとの国会対策等々が記されてゐる。会期末の与野党対立の煽りなどから、二度も廃案の煮湯を吞まされてもゐる。しかし、関係者の努力が実つて、最終的には野党第一党の民主党も（一部の日教組関係議員を除き）賛成に回つた。

かうした声を形にすべく田中智学師門下の人達によつて、平成五年四月、「昭和の日」に向けた国民運動の第一歩が動き出した。正月の一般参賀の帰路などで、幾度となく「昭和の日」の制定を訴へるチラシをもらった。日々、耳目に触れる「朝日毎日読売日経東京」の諸紙を初め「民放各テレビ局」の元号軽視無視は、甚だしいものがあつて、この点からも「昭和」の元号を冠した祝日の文化的意義は大きいと思つた（平成七年一月から、部数日本一を誇る読売新聞が朝日新聞・毎日新聞等に倣つて？ 国内報道面から元号を消した）。

「国民の祝日に関する法律」の第二条に

改正祝日法の施行は、カレンダーを先行印刷してゐる業界等への配慮もあつて、「平成十九年一月一日」となつてゐた。かくして、今年、晴れて初の「昭和の日」を迎へることになつたのである。今年はずつきりした気持ちで日の丸を掲げられる。

（拓殖大学日本文化研究所客員教授）